

岡山ものを中心とした阪神消費市場 における鶏卵食鶏の市況動向

県農林部で、このほど公表された「38年度上期農業観測」には、観測に先立って行なわれた消費市場における県産農産物の市況動向調査の資料が補助資料として掲載されています。このうち阪神市場における畜産関係（鶏卵、食鶏）分の資料について、業界の責任ある地位にあつて、実地にその衡に当っておられるつぎの各氏を中心に聴取した、畜産物の動き、見通し、意見といったものは、これからの畜産生産に大きな示唆を与えるものがあると思われましたので、ここに紹介することとしました。

全販連大阪支所 畜産部 高岡鶏卵課長ほか談
大阪鶏卵 KK 上田取締役ほか談
伊丹キューピーKK 樽井氏ほか談

鶏 卵

■岡山県ものの評判

従来本県産の卵は「岡山もの」として品質、選別等で他県を圧していたが、最近一部で銘柄を落してきている。選別の悪いものが多く、岡山ものは古箱入りという観念が生じている。また県北ものでは量目不足の危険があるとされている。

全般に、夏場は鮮度がよいということだけで、競争で受け入れるが冬には岡山ものという評判が悪い。「夏に貰うために冬でも買っている」という業者もある位である。

集団養鶏のものは卵殻薄く、卵黄も淡いといわれているが岡山ものはこの点は比較的好評で、ただ選別を厳重にすることと、汚卵混りとして8円引よりも全体で1円上げの方がよいという考え方をすべきであろう。

■消費の動向

大阪市場管内では2割～2割5分程度の消費の増加が見込まれている。

1～2月の小売店では高い相場でも納得して買っ

ている理解ある態度がみられる。

従来1個10円を標準にした卵が多く出ていたが、最近では15円を標準にしている。

1月の店頭調査では、従来1～2個の少量消費が多かったが、最近では嗜好性、食生活の向上から販売単位が大きくなりつつある。5個単位で買うもの47%、10個買い20%、次が20個買いと続いており、他は家族数にあわせて買っているものとみられる。

この結果からも、半ダース建て又は10個入りケースが目下検討されており、小売での手数省略と消費促進に資されようとしている。

■販 売

次のことが話題となった。

色もの（赤玉）を2割程度混ぜて出荷してはどうか。

鶏卵の65%は一般家庭向けであるので、小売店で好評なものではなくてはならない。それを考えると、赤玉混りを出荷することが考えられる。赤玉を混ぜると色彩的に白い卵を美しく引き立てることと、赤玉の方が栄養がある。新しいのだという考えが残っていてよく買われてゆくからである。一代雑種を飼うという考え方であり、そのような飼育形態も考えられてよいのではないかということです。

小売店では一度1個13円という値札をつけるとそれを上げたり下げたりすることを好まず、卵価によって仕入を大玉や小玉にかえる方法をとっている。この点からも選別の厳重なものではなくては好評は得られない。岡山県では一出荷団体をみた場合、そこから出荷されるものは1箱160～170入りとなっているが、選別の厳重なところでは150～210入りの各ケースが出てきている。（岡山県では高松農協や今井農協などはその選別、品質など好評である由。）

■マヨネーズ向けの動向

11社で作られているマヨネーズ協会調べでは、37年27,000～28,000tに対し、2割～3割増の32,000

岡山畜産便り 1963.05・06

～33,000t程度が消費されるものとみている。マヨネーズの消費は5、6月が多いが出荷に見あう製造が行なわれている。しかし卵の仕入れは主として冬から春にかけて大量に行なわれ製品化され、一部は鮮度の落ちる夏場に使われるため、割って半製品として保存される。3月現在、大阪市場入荷のうち1日5～6,000箱がマヨネーズに向けられている。岡山ものは最も多く消費されているとみられ、性質上鮮度を重視しているが量目不足のものがあると指摘している。

なお、歩留りからマヨネーズ向けは50g以上のものでなくてはならないが特大卵はここでもきらわれる。なお海外からの原料卵の輸入は現在考えられないが、卵価の動きによっては米国から冷凍卵黄の輸入が検討されるかもしれないといわれている。

■香港向け輸出

日本の卵は香港では人気があり、中共ものよりは鮮度が良い。日本から香港には5～6日で着く。中共は放し飼いのため採卵が不確かであり、列車送りで一カ所へ集荷し、出荷しているため鮮度が悪い。また、思惑的な貯蔵をしているなど不評である。

香港市場におけるタイ国の進出については、バンコクでの実態調査では、①政府が価格をコントロールし、価格が下がったら輸出するようにしているため最近生産意欲が減退していること②タイが鶏卵を常食にしておらず、高級ホテル、外人用という考えであること、産卵率が年間70個程度であるが、肉用鶏であるため産卵量は問題にしておらず、競争相手としては大したことはないという見通しをしている。

香港向け輸出は12月、1月には輸出量は少ない。仕入値は170円以上ではだめで170円以下なら輸出可能である。このことは見方を変えれば卵価下落のテコ入れになっているといえる。

小粒が好かれる（1セントでいくらかという売り方をしており、1セント4つが限度で1セント3つになっては売れない）ので、3～4月頃には秋ビナの小玉が出回るので価格が下れば輸出されるかもしれない。ただ日本のものは卵黄が淡いものが多いのが難点である。

■冷蔵

冷蔵向けは全体の0.4%程度であり、それも年々減

少してきている。養鶏技術の進歩から年間を通じてのヒナ導入になり、「今産」で間にあうということと、暑くても割合よく生んでいることなどから、年間を通しての価格差が少なくなっているため冷蔵の有利性が減少している。なお本年1、2月の卵価が高かったため当時の冷蔵は少ない。庫入れのズレがその後の卵価に多少は影響するであろう。

■立地からみた輸送上の利点

本県は四国に比し運賃ではkg当り1円程度有利、海上輸送のものに比べては2円程度恵まれている。近郊に近いだけに業者の競争が激しいし、また市場の声がきこえるのも早い。四国では生産者も出荷に対してはいろいろ苦勞しており、農協でも業者でも中間マージンを削って競争している。それに比し、恵まれている本県で品質、選別がそれほど改善されているようにはみられないのは何故か。いかに手抜して今の値段を維持しようとするかという気持ちがないであろうか、虚心に反省してみななければならない。

食 鶏

食鳥は①生体取引が多い②計画生産体制がとられていないことのため価格変動が激しい。例年3月中下旬から下向き6月が底を示す。7月下旬頃から持ち直し10、11月と高く、12月が売られる割には価格が上らない。各月の消費数量はそれほど変らない。ただ5、6月に減退し11月手当買いがされ、12月は大きく消費量が伸びる。食鶏価格は1年毎の繰返しを示し38年は高かった37年に比べ見通しは暗い。相場よかった年は相場の下落がおそく表れる年であるが、本年は1月中旬からダレは始めている。下期はそれほど悪くはないであろうが、次のようなこともあって暴騰はないであろう（上期が安いと往々暴騰する）。大阪市場における業者の冷蔵は3月下旬現在20万羽（前年は5～6万羽、36年は36年7月現在30万羽）位とみられ、これらは5月相場がもどしても引合わなく、もっと値が出たときでないで蔵出しされないであろう。

■消費傾向

毎年3割強ほどの流通量の伸びがあり、市内だけで25,000～30,000が毎日出回っているものとみられ

岡山畜産便り 1963.05・06

る。大阪市場で4～50,000羽が取引され55～60%がブロイラーである。また65%程度が業務用で家庭消費の伸びも期待されている。

主体の業務用には、従来1.3kgものの需要が多かったが、最近では骨付きの料理ものの単価の関係から900g程度のものか、又はさばき用として肉の歩留りのよい1.5kg以上のものが好まれるという傾向が出つつある。

各産地とも、交配種よりも専用種を飼う方が有利であるためそれに移行し、従って大型のものが出荷される傾向が相当顕著であり、中ビナ、小ビナは減ってきているので上の需要にあわせ8週令で、1kg以内で肉もできている種類の品種改良が望まれている。また専用種は雌雄無鑑別であるので同時出荷でなくメスは早めに出し、オスを成長させてからという工夫もあろう。現在ブロイラーには産地銘柄はなく、兵庫、鳥取、香川、岡山の順で入荷量が多い。なお、ブロイラー生産指導技術者と防疫体制が新産地のために望まれている。

■食鳥と海外事情

ブロイラーは昭和28年はやばやと自由化されたが、当時何の懸念もなかったものが、現在は食生活も洋風化して一般家庭でもブロイラーを消費するようになり、生産面でもブロイラー飼育がひとつの産業にまで成長しているため当時とは事情がだいぶ変わってきている。米国でも日本を進出目標に定めているといわれ、37年度は約400tと前年の4倍にふえたものと思われる。(日本の生産高、年間約3万tでいまのところまだそれほど問題ではない)。この価格は日本ものに比べて一概に安いものといえないし、日本のブロイラー価格の変動がはげしいので商社にとって危険負担もあるわけである。

現在の人気は冷凍ものになれていないせいもあり、味も日本人の嗜好にあわない。(かしわはごちそうでありごちそうは旨くなくてはならない)からである。ただ、食鳥消費が伸びてきたとき日本進出に本腰をいれ飼料価格を操作されて、安いブロイラーが大量に進出してくることとなるとその影響は無視できない。(米国の生産形態は老人、黒人の安い労働力によるトリ小作形態—飼料会社、種鶏会社、薬品会社等が出費、技術指導し、飼養規模も1～10万羽と比較

にならないほど大きい)

香港向け輸出については、ダルマの形で500g位の小型のものでなくてはならず、そうすれば専門の産地をつくらねばならぬ。将来検討されるかもしれない。

鶏卵の品質改善

夏は鶏卵の品質が1年のうちでも、もっとも低下しやすい時期です。なかでも鶏卵の新鮮度は気温が高くなるにつれて悪くなりますから、産卵した卵はなるべく早く鶏舎から集卵して湿気の少ない涼しい場所で保管しましょう。また、卵を水洗いしますと、とくに夏分は卵が腐敗しますから、汚れたものは、みがき粉かサンドペーパーまたは、乾いた布で拭き取るようにしましょう。